

述べるようなことより、本症の原因に何んらかの感染症が、Trigger になるのではないかと考えられていることによる。1つは疫学的検討の結果、集団発生例がある、同胞発生がかなりある、若干の季節差があるなど感染症を思わせる成績があり、臨床的には、口腔粘膜が発赤し、咽頭発赤もみられる。さらに、頸部リンパ節が腫大するなど、何か原因菌なり、原因物質が咽頭、口腔より侵入したことを思わせる所見があるなどである。これらのことから、本症の発症に感染症が関与するのではないかと推定されているが、昭和42年頃より急に出現したことなど、まだまだ感染症が Trigger になるのではないかという推定には十分に説明出来ないことも少なくない。

これまでにも、全国調査にて患児の咽頭培養所見の検討がなされ、特異的原因菌はないとされている。しかし、患児の多くは咽頭培養検査の出来るような施設に来院するまでに抗生剤が使用されている。このようなことより

当然、咽頭細菌叢が変化する。もし、咽頭に細菌がつくことにより、発症するならば、家族、特に両親の咽頭にも原因菌がある可能性が大であると推定される。しかも、家族の多くは抗生剤の投与をうけていないことが多いことより、もし、原因菌をさがすならば、家族の咽頭菌の検査を行うことの意味は大であると考えた。

今回は、症例数も5例と少なく、結論的なことは云えないが、今後も研究を続けてみるつもりである。

#### IV. 結 語

川崎病急性期患児、5例と少数例ではあったが、入院時患児の両親をも含め、咽頭培養検査を行った。

その結果、特異的所見は得られなかったが、もし、本症の発症に細菌感染が関与するならば興味のある研究方法の1つと思ひ報告した。今後の研究を続けるつもりである。

## MCLS 髄液の細胞学的研究および MCLS における L-ASO 追試成績

日赤医療センター小児科 川 崎 富 作

### I. 研究目的

MCLS は原因が未だに不明であるが、無菌性ズイ膜炎がしばしば合併することは衆知の通りである。そこで、髄液中の細胞成分を精細に分析することにより、本症の病因の一端を明かさんとするのが目的である。また、近年、松見、上野らは本症が溶連菌により発生すると報告し、その根拠として L-ASO の急性期における高率の陽性をあげている。果して、この説は正しいかどうかを確かめるため、L-ASO の追試を行った。

### II. 成 績

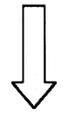
まず、MCLS 髄液の細胞学的検査では、はじめ、電顕像によりウイルスの存在を確かめようとしたが、細胞を電顕にかけることが不可能であったため、光学顕微鏡で細胞を精細に分析した。検査した68例を第一群（細胞数9/3以下）、第二群（10/3～19/3）、第三群（20/3～49/3）、第四群（50/3～97/3）、第五群（100/3以上）の5群に分けて分析し、次の成績を得た。症例数は第一群から第五群まで、それぞれ17例、18例、13例、11例、9例で、平均年齢は、3.5才、3.2才、1.6才、1.4才、1.7才

で、細胞増多群は年少児に多かった。第一群から第五群までのリンパ球対単球比 L/M をみると、それぞれ、2.4、2.2、1.9、1.6、2.0 で、細胞増多群では、リンパ球と単球一大食細胞比は小となり、単球、大食細胞が相対的に増加していた。一方、水痘（1例）およびムンプス（5例）に合併したウイルス性髄膜炎の L/M 比をみると、それぞれ、4.6、15.7、7.8、20.0、10.0、11.0、と MCLS 髄液に比して非常に大きかった。また MCLS 髄液中の細胞にはウイルス感染後にみられる明瞭な核内封入体は確認できなかった。

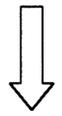
一方、L-ASO については、上野らの方法を用いて、16例に実施したところ、陽性を呈したものの1例で、他はすべて陰性であった。

### III. 結 論

今回の MCLS 髄液の細胞学的分析によって、一般のウイルス性髄膜炎にみられる細胞比とは異なった細胞比を示すことを知ったが、病因の手掛りを得るには至らなかった。また上野、松見らの L-ASO を追試した結果、陰性の結果であった。



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



. 研究目的

MCLS は原因が未だに不明であるが,無菌性ズイ膜炎がしばしば合併することは衆知の通りである。そこで,髄液中の細胞成分を精細に分析することにより,本症の病因の一端を明かさんとするのが目的である。また,近年,松見,上野らは本症が溶連菌により発生すると報告し,その根拠として L-ASO の急性期における高率の陽性をあげている。果して,この説は正しいかどうかを確かめるため,L-ASO の追試を行った。